

那覇空港構想段階PI実施報告書（案）

第3回那覇空港構想段階P I 評価委員会  
のご指摘に基づいた修正資料

平成21年3月

那覇空港構想・施設計画検討協議会

## はじめに

国(内閣府沖縄総合事務局及び国土交通省大阪航空局)と沖縄県では、平成15年度から平成19年度にかけて、那覇空港の将来整備のあり方について「那覇空港の総合的な調査」を実施してまいりました。

総合的な調査の結果、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であることが確認され、また、PIを通じて、滑走路増設に肯定的なご意見が多数寄せられたことから、これら結果を踏まえ、具体的な将来対応方策について検討を行う必要があると判断し、構想段階へ移行しました。

国と沖縄県では、構想段階検討にあたり、那覇空港構想・施設計画検討協議会を設置し、PIの手法を取り入れながら総合的な調査段階で提示した滑走路増設3案を基本に詳細な検討を行ってきました。

検討にあたっては、社会面、経済面、環境面等の様々な観点から、増設A案(滑走路間隔1310m)、増設B案(滑走路間隔850m)の2案を作成し、比較評価を行いました。

これら検討結果については、「構想段階PIのためのレポート」にとりまとめ、平成20年12月15日から平成21年2月6日にかけて、県民等への情報提供及び意見収集を実施しました。

なお、PI実施にあたっては、透明性、公平性を確保するため第三者機関である「那覇空港構想段階PI評価委員会」を設置し、評価・助言を頂きながら進めてきました。

この「那覇空港構想段階PI実施報告書」は、「那覇空港構想段階に関するPI実施計画」に基づき実施した構想段階PIの実施結果についてとりまとめたものです。

平成21年3月

那覇空港構想・施設計画検討協議会

－ 目 次 －

I. PI活動の評価方法	1
1. 評価の対象	1
2. 評価の視点	1
3. 評価方法	2
II. PI評価委員会で頂いた助言と構想段階PIでの対応	3
III. 構想段階PIの活動と評価	4
1. 活動評価	4
(1) PI活動は適切に行われたか	4
(2) 提供した情報が周知されたか	11
(3) 提供した情報が理解されたか	18
(4) 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか	20
2. まとめ	32
(1) 視点毎のPI活動の評価	32
(2) PI活動の総合評価	32

# I. PI活動の評価方法

構想段階におけるPI活動の評価は、「那覇空港構想段階に関するPI実施計画」に基づき、活動の実施内容及び結果について行うものとする。

## 1. 評価の対象

○評価対象は、那覇空港の構想段階に関する周知・広報活動及び情報提供・意見収集活動と、これらの活動を通じて収集した意見への対応とする。

## 2. 評価の視点

○PI活動については、大きく「PI活動の実施内容」、「PI活動の結果」の2段階に分けて評価することとし、これらの各段階に対応する4つの視点を設定する。

○具体的には、「PI活動の実施内容」では、その「適切性」と「情報の周知」を評価し、「PI活動の結果」では、活動の結果を「情報の理解度」、「意見収集及び意見への対応」に分けて評価することとする。

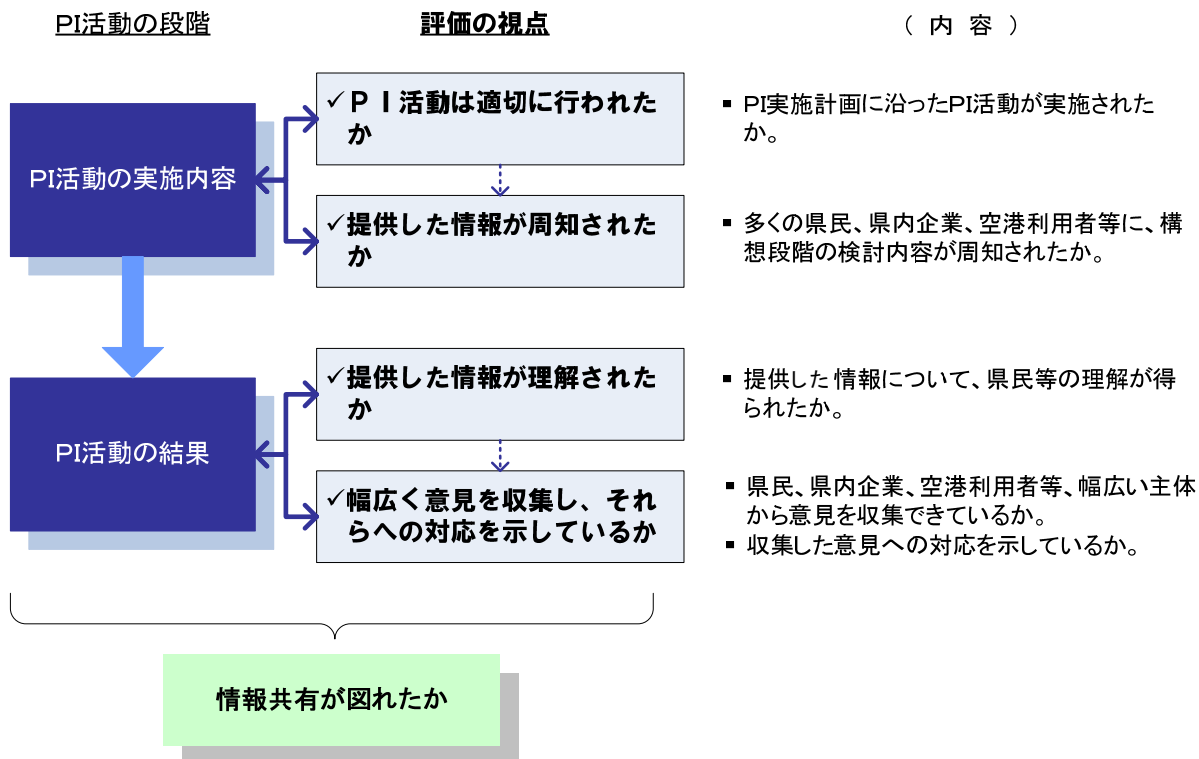


図1 PI活動における評価の視点

### 3. 評価方法

- PI活動の評価は、表1に示す4つの視点で行うものとする。
- 各視点における評価は、「PI活動の実績」、「参加した県民等の人数」、「意見を寄せた県民等の構成」等、客観的な情報に基づき行うことを基本とする。

表1 PI活動の評価方法

評価の視点	評価方法
1)PI活動は適切に行われたか	・ PI実施計画と比較し、「計画どおりに活動が実施されたかどうか」（適合性）について評価します。
2) 提供した情報が周知されたか	・ PI活動への県民等の参加状況（直接的な周知）、マスメディアによる報道状況（間接的な周知）を把握し、提供した情報が「多くの県民等に周知されたか」（情報の周知）について評価します。
3) 提供した情報が理解されたか	・ 提供情報に関する県民等の理解度について評価します。
4) 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか	・ 意見を寄せた県民等の構成（参加者の多様性）、寄せられた意見の内容（意見の多様性）を分析し、「幅広い層の県民等から多様な意見を収集できているか」について評価します。 ・ 合わせて、寄せられた意見に対して、「対応が示されているか」について評価します。

## II. PI評価委員会で頂いた助言と構想段階PIでの対応

○PI実施に当たり、那覇空港構想段階PI評価委員会（第1回及び第2回）で頂いた助言を踏まえ、PI活動への対応を検討・整理し、PI活動に反映することとした。

表2 那覇空港構想段階PI評価委員会による主な助言と対応策

分類	PI評価委員会での主な助言	構想段階PIでの対応	対応掲載ページ※
周知広報について	・PIを効率的に実施するためには、テレビ、ラジオ等を効率的に活用することが望ましい。	那覇空港周辺の3市及び沖縄県の行政ラジオ番組や、県政テレビ番組を積極的に活用し、周知広報に努めた。	→p7
情報提供について	・可能であれば、東京など県外での空港関係者、旅行者への説明会を実施した方が良いのではないかと。	県外での説明会は予算上厳しいため、県外の空港関係者や旅行者に対しては、沖縄支店へ説明会の案内やPIレポートを送付するなど、できる限り周知広報に努めた。 また、県外の方にもPIに参加していただけるよう、ターミナルビル会社の協力を得て、羽田や伊丹、福岡空港ではレポートの設置を行った。	→p8
レポートの修正、追加等	・レポートの題名について、「構想段階PIレポート」では、最終報告書と間違える可能性があるため、「構想段階PIのためのレポート」に修正すべきである。	ご指摘どおり修正。	→レポート表紙
	・レポートの「比較評価」について、航空事業者利便性の地上走行距離に距離を記載しているが、所用時間を併記した方が、理解されやすいのではないかと。	所要時間を併記した。	→レポートp12 ※詳細版も同様に修正
	・地上走行距離という表現がわかりづらいため、どこからどこまでの距離なのか説明を入れるべき。	ご指摘通り、注釈を追加した。	→レポートp13 ※詳細版も同様に修正
	・「那覇空港周辺の環境現況」について、自然環境と合わせて、社会環境も記載した方が理解されやすいのではないかと。	ご指摘通り、大嶺崎や瀬長島の文化的環境の現況について追加掲載した。	→レポートp10
	・増設A案及びB案のイラスト図に、滑走路長を表記した方がわかりやすい。	ご指摘どおり追加。	→レポートp12～14 ※詳細版も同様に修正
	・現ターミナルの整備計画について、県民の関心も高いことから、いずれかの時期に説明を行う必要があるのではないかと。	参考情報として、レポートの詳細版に追加掲載した。	→レポートp36（詳細版）

### Ⅲ. 構想段階PIの活動と評価

#### 1. 活動評価

##### (1) PI活動は適切に行われたか

##### ①活動結果

- 構想段階PIでは、情報提供及び意見収集を約8週間（平成20年12月15日～平成21年2月6日）実施した。構想段階PIは、那覇空港の滑走路増設について複数の選択肢から滑走路の概ねの位置、方位、規模等を選定する重要な段階となることから、検討した内容等を幅広く情報提供・意見収集を行うため、構想段階PI実施計画に基づき様々な取り組みを行った。
- 周知・広報活動については、県民等のPIへの参加を促すためPI開始前だけでなくPI実施期間中においても、調査段階以上にラジオ、テレビの行政番組を活用し周知広報に努めた。また、多くの方が集まる大会・会議等にもより積極的に出向いてレポートを配布するとともに、構想段階PIでは新たに県外3空港の協力も得て、県内・県外空港やコンビニエンスストアにレポートの設置箇所を設ける等、様々な取り組みを実施した。
- 行政広報誌への記事掲載については、県内の全市町村に協力をお願いし、年初刊号にもかかわらず16市町村の協力を得て、沖縄総合事務局や県、市町村の広報誌に意見募集等記事を掲載した。
- また、ホームページでは、技術検討会の検討資料等を掲載するとともに、技術検討に関し意見を募集するなど、PI実施期間中のみならず構想段階検討期間中を通じて情報提供、意見収集に努めた。
- 情報提供・意見収集活動としては、より幅広く県民等に参加していただくため、調査段階ではパネル展示を行っていた箇所についても、できる限り説明員を配置したオープンハウスに切り替える等取り組みを強化し、行政施設や商業施設等において、日時等も考慮してパネル展示やオープンハウスを数多く実施した。また、要望があれば個別団体等に対しても出向いて懇談会を実施し、特に構想段階PIでは那覇空港の周辺の自治会にも積極的に説明を行った。その結果、調査段階ステップ3に比べ、同程度の活動を実施することができた。
- PI活動を知った情報メディアに関するアンケートの結果で、最も多かったのは「レポートの入手場所」（31.7%、調査段階ステップ3：20.1%）で、次いで「周囲の人から」（25.7%、調査段階ステップ3：21.3%）、「報道（テレビニュース、新聞等）」（13.1%、調査段階ステップ3：11.8%）に多い結果となった。
- 「レポートの入手場所」が大幅に増加した要因としては、他機関等で実施される各種大会等においても積極的にレポートを配布したり、また、パネル展示からできる限りオープンハウスに切り替え、より多くの方々にレポートを手にとっていただけるよう、周知、広報等に努めたことによるものと考えられる。

②-3 現在、PIを実施していることを何で知りましたか。

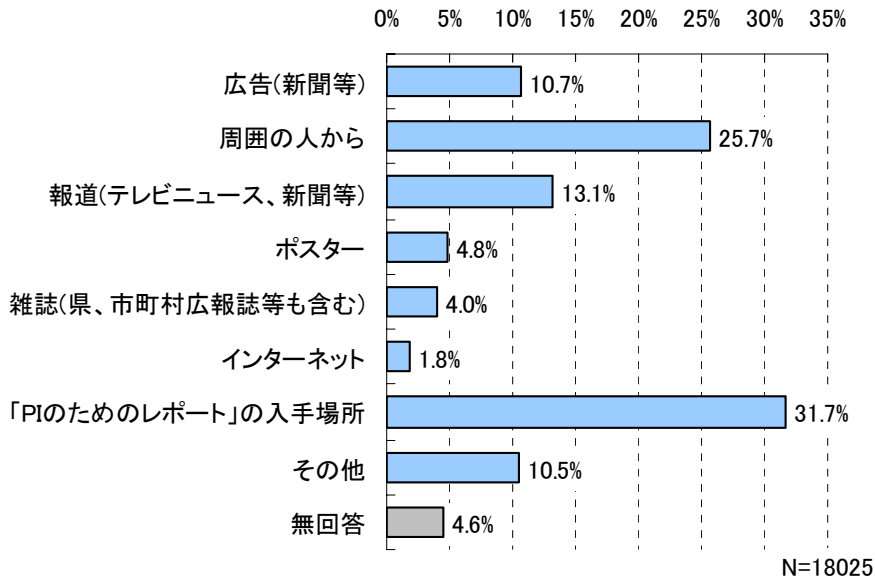


図2 PI参加者がPI活動を知った情報メディア等※（複数回答可）

※：各イベントの参加者、構想段階PIのためのレポート（詳細版を含む）を受け取った県民等、ホームページを閲覧した県民等を対象に実施したアンケートの結果より作成



表2 構想段階PIで実施したPI活動の実施状況

1) PIの周知・広報

手法	実施内容		総合的な調査 (ステップ3)実施内容
行政広報誌への記事掲載	18誌	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に配布する広報誌に、PI開始を周知する記事を掲載した。</li> <li>① 沖縄総合事務局：1誌（1月号）</li> <li>② 沖縄県：1誌（1月号）</li> <li>③ 市町村：16誌（1月号）</li> </ul>	23誌 ① 沖縄総合事務局：1誌 ② 沖縄県：2誌 ③ 市町村：20誌
新聞への記事掲載	開始前1回 実施中2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の主要紙（沖縄タイムス、琉球新報）に、PI開始を周知する記事を掲載した。</li> <li>① 12/14 沖縄タイムス、琉球新報（PI開始前）</li> <li>② 12/30 沖縄タイムス、琉球新報（シンポジウム開催時）</li> <li>③ 1/15 沖縄タイムス、琉球新報（県民サロンでの周知広報）</li> </ul>	開始前1回 実施中3回
空港、公共施設等でのポスター掲示	1,500枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港、市町村の公共施設等で、PIを周知するためのポスターを掲示した。</li> <li>① 国、県、市町村の公共施設</li> <li>② 空港、モノレール駅</li> <li>③ 各種団体の施設等</li> </ul>	1,500枚
ホームページへの情報掲載	PI実施期間中	<ul style="list-style-type: none"> <li>那覇空港構想・施設計画検討協議会事務局（沖縄総合事務局 那覇空港プロジェクト室）のホームページで、PI開始を公表するとともに、ホームページに掲載したことをプレスリリースした。</li> <li>また、PI実施前より、技術検討会の検討資料等を掲載するとともに、技術検討に関し意見を募集するなど、構想段階検討を通じて情報提供、意見収集に努めた。</li> </ul>	PI期間中
PI開始式の実施	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>国、県、市の参加によるPI開始式を開催し、PI開始の周知を行った。</li> <li>① 12/15 16:30 県庁前県民広場</li> </ul>	1回
県政テレビ番組の活用	民放3局・各1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政テレビ番組を通じて、PIの周知を行った。</li> <li>① 県：うまんちゅひろばのインフォメーションコーナー</li> </ul>	民放3局・各1回
行政ラジオ番組の活用	62回	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政ラジオ番組を通じて、PIの周知を行った。</li> <li>① 県：ラジオ県民室</li> <li>② 那覇市：那覇市民の時間</li> <li>③ 豊見城市：豊見城インフォメーション Viva!!とよみパラダイス!!</li> <li>④ 糸満市：糸満市役所だより</li> </ul>	行政ラジオ番組の活用：54回
各種大会、会議等での呼びかけ	23回	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内で開催された各種大会等で、直接的にPIの周知を行った。</li> <li>① 各種大会、会議等：15回</li> <li>② 自治会長会：8回</li> </ul>	9回 ① 各種大会等：5回 ② 自治会長会（4回）

2) 情報提供・意見収集

手法	実施内容		総合的な調査 (ステップ3) 実施内容
レポート の配布	86,549部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討した結果等の要点をとりまとめた構想段階PIのためのレポートを作成し、行政の情報窓口、空港等で配布した。</li> <li>① 国、県、市町村の公共施設：21,170部</li> <li>② 各種団体等：33,915部</li> <li>③ 県内離島空港（9空港）：450部</li> <li>④ 県外空港（羽田、伊丹、福岡）：8,990部</li> <li>⑤ モノレール駅：1,078部</li> <li>⑥ オープンハウス等PI会場：18,432部</li> <li>⑦ 各種大会、会議等：2,514部</li> </ul>	77,235部 ※調査報告書（概要版）
レポート (詳細版) の配布	1,094部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討した結果等を詳細にとりまとめた構想段階PIのためのレポート（詳細版）を作成し、希望者に配布した。</li> <li>① 国、県、市町村の公共施設：583部</li> <li>② 各種団体等：76部</li> <li>③ オープンハウス等PI会場：435部</li> </ul>	16,139部 ※調査報告書
パネル展 示	5か所 (延べ103日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民が気軽に訪れることの出来る場所で一定期間パネル等を用いて情報提供を行った。</li> <li>① 那覇空港(北側ギャラリー)：1/5～2/6 (33日)</li> <li>② 沖縄総合事務局：12/22～2/6 (28日)</li> <li>③ モノレール県庁前駅：1/4～1/7, 1/9～1/18 (14日)</li> <li>④ モノレール小禄駅：12/22～1/4 (14日)</li> <li>⑤ モノレールおもろまち駅：12/22～1/4 (14日)</li> <li>※沖縄総合事務局については土日祝祭日を除く</li> </ul>	10か所 (延べ165日) ① モノレール5駅 ② 3市町 ③ 2空港

手法	実施内容		総合的な調査 (ステップ3)実施内容
オープン ハウス	30か所 (延べ190日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民が気軽に訪れることの出来る場所で一定期間パネル等を用いて情報提供し、意見収集や意見交換を行った。</li> <li>1. 沖縄県庁：1/6～2/6（23日）</li> <li>2. 石垣市：1/19～1/23（5日）</li> <li>3. 糸満市：1/13～1/23（9日）</li> <li>4. 浦添市：1/19～1/23（5日）</li> <li>5. うるま市：12/22～12/26（4日）</li> <li>6. 宜野湾市：1/19～1/23（5日）</li> <li>7. 豊見城市：1/6～1/16（8日）</li> <li>8. 名護市：2/2～2/6（5日）</li> <li>9. 那覇市：1/19～2/6（15日）</li> <li>10. 南城市：1/26～1/30（5日）</li> <li>11. 嘉手納町：2/2～2/6（5日）</li> <li>12. 金武町：1/13～1/16（4日）</li> <li>13. 北谷町：12/22～12/26（4日）</li> <li>14. 西原町：1/26～1/30（5日）</li> <li>15. 南風原町：2/2～2/6（5日）</li> <li>16. 本部町：12/22～12/26（4日）</li> <li>17. 八重瀬町：1/26～1/30（5日）</li> <li>18. 与那原町：12/22～12/26（4日）</li> <li>19. 那覇空港(ウェルカムホール)：1/5～2/6（33日）</li> <li>20. 宮古空港：1/26～1/30（5日）</li> <li>21. ているる：1/13～1/16（4日）</li> <li>22. 県立図書館：1/28～2/2（6日）</li> <li>23. パレット久茂地前広場：1/3～1/4, 1/12, 1/18（4日）</li> <li>24. ジャスコ南風原：1/10～12（3日）</li> <li>25. ジャスコ那覇：1/17～1/18（2日）</li> <li>26. ジャスコ北谷：1/17～1/18（2日）</li> <li>27. ジャスコ名護：1/24～1/25（2日）</li> <li>28. ジャスコ具志川：1/31～2/1（2日）</li> <li>29. プラザハウス：1/10～1/12, 17, 18（5日）</li> <li>30. 名護さくら祭り：1/31～2/1（2日）</li> <li>※官公庁については土日祝祭日を除く</li> </ul>	26か所 (延べ172日)
シンポジ ウム	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討した結果等について、基調講演や数名のパネリストとの対話を通じて情報提供を行った。</li> <li>① 1/8（木）15:00～17:00 パレット市民劇場</li> </ul>	

手法	実施内容		総合的な調査 (ステップ3)実施内容
一般説明会	7か所・7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討した結果等を、県民や地域住民などを対象に説明を行った。</li> <li>①那覇市：1/14</li> <li>②沖縄市：1/15</li> <li>③糸満市：1/20</li> <li>④豊見城市：1/21</li> <li>⑤浦添市：1/29</li> <li>⑥名護市：1/30</li> <li>⑦沖縄県庁：1/20</li> </ul>	6回 ①那覇市×2回 ②糸満市 ③豊見城市 ④沖縄市 ⑤名護市  ※一般説明会のみ
懇談会	28回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討した結果等について、各種団体に対し説明会を設け、意見交換を行った。</li> <li>①地域住民：10回</li> <li>②空港・航空関係者：4回</li> <li>③経済団体等：13回</li> <li>④大学：1回</li> </ul>	31回 ①地域住民：3回 ②空港・航空関係者：2回 ③経済団体等：23回 ④大学、県職員：3回
ホームページへの情報掲載	PI実施期間中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページにおいて、検討した結果等に関する情報を提供した。</li> </ul>	PI実施期間中
意見募集	PI実施期間中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動期間内を通じて、複数のメディアから、県内外の関心を有する人から意見を受け付ける体制を整えて、対応した。</li> <li>①郵送、FAX</li> <li>②インターネット（ホームページ）</li> <li>③説明会、オープンハウス等</li> </ul>	PI実施期間中
広報テレビでの情報提供	PI実施期間中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県政広報テレビ（県庁1階ロビー）及び沖総局広報テレビ（沖総局1階ロビー）を通じて、構想段階の検討結果等を分かりやすく取り纏めたDVD放送を終日行った。</li> </ul>	PI実施期間中

## ②評価

○PI実施計画で予定した活動は全て実施するとともに、オープンハウスや個別団体への懇談会等を全県的に数多く開催しており、特に那覇空港周辺の地域住民に対して積極的に説明を行っている。また、新たに県外空港でもレポートの設置箇所を設ける等、幅広く県民や県外の空港利用者が参加できるよう活動を充実させている。

## (2) 提供した情報が周知されたか

### ①活動結果

- 構想段階PI実施期間中に、街頭での配布や郵送、説明会等のイベント会場での配布により、構想段階PIのためのレポートを86,549部、詳細版を1,094部、合計87,643部の資料を配布した。
- 構想段階PIで実施したイベントのうち、オープンハウスに8,228人、シンポジウムに197人、説明会に389人（県内で7回開催）、懇談会に878人（県内で28回実施）、延べ9,692人が参加した。これは、調査段階ステップ3を約300人上回っており、多くの方々に参加いただくことができた。
- ホームページには、構想段階PI活動の開始日から終了日までに、11,005回のアクセスがあり、アクセス件数も調査段階ステップ3を上回った。
- この他に、PIのためのレポートの内容を紹介した新聞報道が22回あり、構想段階PIでは特に、滑走路増設案に対する那覇空港周辺自治体の意向等が示されるなど、より地域住民等の関心も高まったものと推測される。
- PI参加者等を対象に実施したアンケートにおいて、那覇空港の構想段階に関する調査を実施していることを「今回知った」と回答した方は約6割となっている。構想段階PIでは、調査段階と同様、オープンハウスや説明会等を全県的に実施するとともに、他機関において実施される各種大会等においても積極的にレポートを配布したり、県外空港等を含め、レポートの設置箇所等を増やす等、情報提供に努めた結果、これら約6割の方々に新たに情報を提供することができたものと考えられる。
- また、調査段階PIから知っていたと回答した約3割の方々には、調査段階から引き続き那覇空港の検討に関心を寄せていただくことができたものと考えている。
- また、アンケートの回収数は、18,025通と調査段階ステップ3の約1.4倍と増加し、回収先は、参加人数の多いオープンハウスでの回収や、郵送、持ち込みが多くを占めた。

表3 構想段階PIで実施したPI手法への参加者数等（直接的周知）

手 法	参加者(延べ) 資料配布数	調査段階PI（ステップ3）の実績
資料配布	87,643部	93,374部
構想段階PIのためのレポート	86,549部	77,235部（概要版）
構想段階PIのためのレポート （詳細版）	1,094部	16,139部
イベント	9,692 人 （配布 18,427部）※	9,409人 （配布 11,776部） ※下記以外に空港見学会にて情報提供を行っている。 398人（配布 117部）
オープンハウス パネル展示	8,228 人 （配布 16,562部）※	7,653人 （配布 8,896部）
シンポジウム	197 人 （配布 197部）※	180人 （配布 180部）
説明会	389 人 （配布 548部）※	479人 （配布 827部）
懇談会	878 人 （配布 1,120部）※	699人 （配布 1,756部）
ホームページへの 情報掲載	11,005アクセス	9,779アクセス （2か月）

※：各会場で配布した構想段階PIのためのレポート、詳細版の部数合計（これらの部数は、上述の資料配布の部数に含まれる）

表4 構想段階PI実施に関連するマスメディアでの報道状況（間接的周知）

区分	見出し／タイトル（報道月日）	報道要旨	メディア
新聞 (一般紙)	①滑走路増1310・850m案に15日から住民意見収集(12/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回構想・施設計画検討協議会において既存の3案から2案に絞り込み、15日からの構想段階PI開始を報道。</li> <li>1310m・850m各案の概要を説明。</li> <li>210m案の除外については地元からの反発が強いことを説明。</li> </ul>	沖縄タイムス(夕刊1面)
	②1310m・850m沖合2案にPI実施、年度内決定(12/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回構想・施設計画検討協議会において既存の3案から2案に絞り込み、15日からの構想段階PI開始を報道。</li> <li>1310m・850m各案の概要を環境面での影響を含めて説明。</li> </ul>	琉球新報(夕刊1面)
	③県「1310m」に自信(12/10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>滑走路増設2案について、県、周辺自治体、経済界の1310m案支持を報道。</li> <li>増設2案について図で説明。</li> <li>9日の第2回PI評価委員会においてPI実施計画が承認されたこと。</li> <li>那覇空港プロジェクト室HPアドレスを掲載。</li> </ul>	琉球新報(朝刊2面)
	④増設2案で意見収集構想評価委PI内容了承(12/10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>増設2案について比較表で説明。</li> <li>9日の第2回PI評価委員会においてPI実施計画が承認されたこと。</li> </ul>	沖縄タイムス(朝刊2面)
	⑤「自衛隊機沖合側に」県、3市が意見交換(12/12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>11日に開かれた那覇空港構想段階地域連絡会議にて県と那覇、豊見城、糸満の周辺3市が意見交換を行った。</li> </ul>	琉球新報(朝刊2面)
	⑥那覇空港滑走路2案のPI開始(12/16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想段階PIの開始を報道</li> <li>開始式にてPIレポートを配布、協力を呼びかけた。</li> </ul>	沖縄タイムス(朝刊2面)
	⑦滑走路で積極意見をPI募集始まる(12/16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想段階PIの開始を報道</li> <li>開始式にてPIへの積極的な参加を呼びかける副知事のコメントを掲載。</li> </ul>	琉球新報(夕刊2面)
	⑧那覇空港構想段階PI2案で意見募集(12/17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>那覇空港構想・施設計画検討協議会及び那覇空港構想段階PI評価委員会が開催され、1310m案と850m案の案でPIを実施することを承認。</li> </ul>	沖縄建設新聞(1面)
	⑨県負担は100億円想定(12/18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県議会 沖縄振興・那覇空港整備促進特別委で滑走路増設費用の県負担は概算事業費の5%にあたる100億円の想定と説明。</li> </ul>	琉球新報(朝刊2面)



区分	見出し／タイトル（報道 月日）	報道要旨	メディア
新聞 (一般紙)	⑩滑走路増設を推進 那覇空港年度内に位置決定 (12/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想段階PI実施中であることを報道。</li> <li>・ 県、周辺市町村、経済界は同時離着陸が可能な1310m案を推す声強いこと。</li> </ul>	沖縄タイムス (夕刊5面)
	⑪本年度にPI集約 (12/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想段階PI実施中であることを報道。</li> </ul>	琉球新報 (夕刊4面)
	⑫構想段階PI実施中 沖合2案で意見募集に (12/22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想段階PIが12月15日から2月6日まで実施されている。増設A案、B案についての紹介。</li> </ul>	港湾空港タイムス (3面)
	⑬3市長、1310m沖合案支持 騒音軽減を要望 (12/25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇、豊見城、糸満の3市長が会見。1310m沖合に離して建設するよう求めた。</li> <li>・ 騒音被害、漁業への影響、国際貨物基地構想の実現や観光振興のために増設は必要との認識を示した。</li> </ul>	沖縄タイムス (朝刊1面)
	⑭那覇空港新滑走路「1310mで」地元3市が共同声明 (12/25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇、豊見城、糸満の3市長が会見。現滑走路から1310m離すことを求めた。</li> <li>・ また、騒音の軽減に努めること、地域住民への十分な説明を行うことを求めた。</li> </ul>	琉球新報(朝刊2面)
	⑮「1310m超」求め決議 拡張促進連が臨時総会 (12/25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇空港拡張整備促進連盟が臨時総会で滑走路間隔を1310m以上確保し、早期整備を求める決議を行った。</li> </ul>	沖縄タイムス (夕刊1面)
	⑯増設2案に絞り込む (12/31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滑走路間隔1310m、850mの増設2案についてPIを行い1案に絞り込むことを報道。</li> <li>・ 近隣3市、経済界は1310m案を推すことを表明</li> </ul>	沖縄タイムス (朝刊2面)
	⑰経済界がステッカー (1/7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想段階PIで1310m以上沖合展開の支持を広げる為、沖縄経済同友会などがステッカー3000枚を作成、5日から配布を開始。</li> </ul>	沖縄タイムス (朝刊7面)
	⑱那覇空港滑走路増設シンポ 交流拠点早期整備を 県民議論の高まりを期待 (1/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇市のパレット市民劇場にて那覇空港滑走路増設シンポジウムを開催。</li> <li>・ 参加者による様々な視点からのコメントを掲載。</li> </ul>	沖縄タイムス (朝刊2面)

区分	見出し／タイトル（報道月日）	報道要旨	メディア
新聞 (一般紙)	⑱産業振興の基盤に 那覇でシンポ県民議論呼び掛け (1/9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>那覇市のパレット市民劇場にて那覇空港滑走路増設シンポジウムを開催。</li> <li>参加者による様々な視点からのコメントを掲載。</li> </ul>	琉球新報 (朝刊2面)
	⑳滑走路増設で説明会を開催 (1/15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想段階PI一般説明会の15日以降の日程を掲載。</li> <li>自治会等の要望に応じて個別の説明会を開催することを公表。</li> </ul>	沖縄タイムス (朝刊2面)
	㉑「新滑走路1310m沖に」美ら島大使香取氏講演 (2/4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊見城市役所にて美ら島大使の香取氏による講演が行われた。新滑走路を1310m沖に建設することの必要性を主張するとともに、構想段階PIへの参加を呼びかけた。</li> </ul>	沖縄タイムス (朝刊14面)
	㉒沖合展開で騒音抑制 那覇空港拡張 香取氏講演 (2/5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新滑走路増設について、沖合1310m案と850m案に絞込み、それに伴うPIを2月6日まで行われていることを掲載。</li> <li>香取氏は地元住民への騒音被害を抑えるためにもより沖合への滑走路増設を主張するとともに、PIへの参加を呼びかけた。</li> </ul>	琉球新報 (朝刊21面)

注) 琉球新報：県内主要紙、発行部数20.5万部（2005.10.11現在、社団法人ABC協会※調べ）。  
 沖縄タイムス：県内主要紙、発行部数206,877部（2007.1現在、自社発表）。  
 ※新聞、雑誌の発行部数を調査・公表する第三者機関。

## ②評価

- レポートの配布や各種イベントを通じて、構想段階の検討に関する情報を、県内外の約8万7千人の方々に対して、直接提供できている。
- オープンハウスや説明会等の全県の実施や、各種大会等におけるレポートの配布、県外空港を含めレポートの設置箇所を可能な限り増やす等、積極的に情報提供に取り組んだことにより、新たに多くの方々へ情報を提供することができ、県民等への認知度がより一層高まったものと推測される。
- **県民の多数が購読する県内主要2紙では、20回、その他業界紙で2回**の報道がなされており間接的であるが、多くの県民等に構想段階検討に関する情報が提供されている。
- アンケートについては、オープンハウスや郵送、持ち込みによる回収数が多く、商業施設等でオープンハウスを数多く開催したことや、各種団体等に対しレポートを積極的に配布するとともに、公的機関や空港、コンビニエンスストア等、県民等が気軽に入手できる場所にレポートを設置したこと等により、より多くの県民等に情報を提供することができている。
- アンケートは、調査段階ステップ3（12,527人）の約1.4倍となる18,025人の県民等から回答を得ており、回答者の構成は次のとおり。
  - [性別] 回答者の61.9%を男性、女性は30.5%であった。  
(調査段階ステップ3 男性：53.9% 女性：36.6%)
  - [年齢] 30歳代が26.2%と最も多く、次いで40歳代で21.3%、50歳代が19.4%と年齢の構成については、調査段階ステップ3とほぼ同様となっており、幅広い年齢層から回答を得ることができた。
  - [職業] 空港を利用する機会が相対的に多いと考えられる会社員が51.2%、公務員が約9.6%占めたほか、次いで主婦(7.9%)、自営業(4.7%)、学生(4.3%)となっており、幅広い職業層から回答を得ることができたものと推測される。
- 居住地については、那覇市が約27.8%で最も多く、次いで県外10.9%、豊見城市8.8%、名護市8.5%などとなっており、全県的にも、また、県外からも幅広く回答を得ることができた。

②-1 那覇空港の将来対応方策に関する調査を実施していることを、いつ知りましたか。

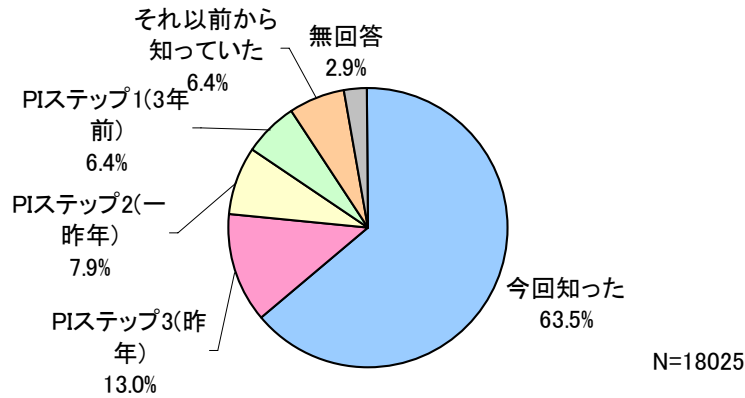


図3 「那覇空港の将来対応方策に関する調査」を知った時期（アンケート結果）

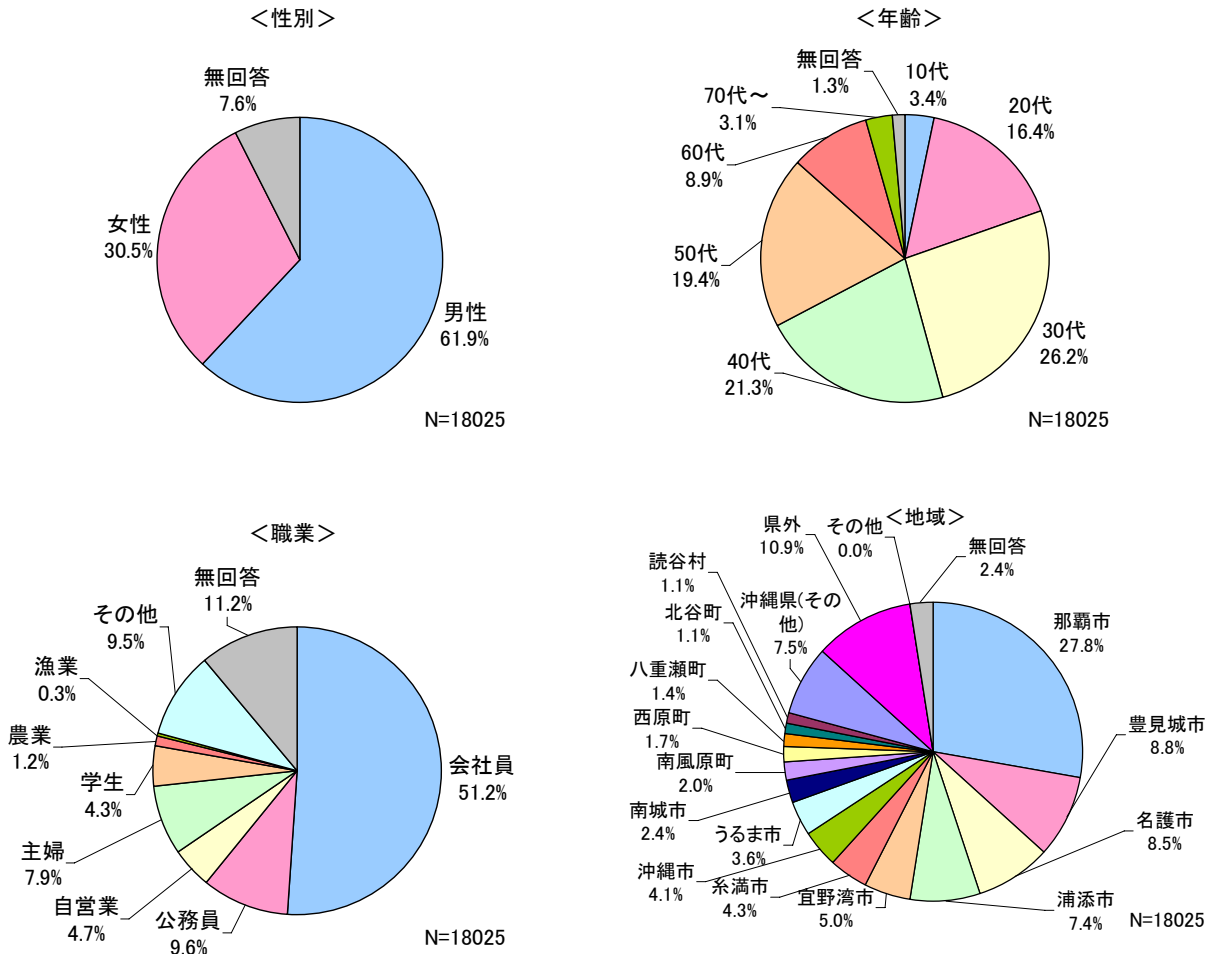


図4 アンケートに回答した県民等（18,025人）の構成

### (3) 提供した情報が理解されたか

#### ①活動結果

##### ○構想段階PIのためのレポートの理解度

- アンケート調査の結果、レポートの内容において「A理解できた」、「Bある程度理解できた」と回答した人の比率の合計が約8割であった。
- 特に、構想段階は滑走路の概ねの位置等を決定する段階であることや、県民の意見が参考となり滑走路の増設の位置が決定されることについては、約9割の方々が「理解できた」「ある程度理解できた」と回答しており、趣旨を十分ご理解いただいた上で、アンケートに回答いただくことができたと考える。

##### <理解度>

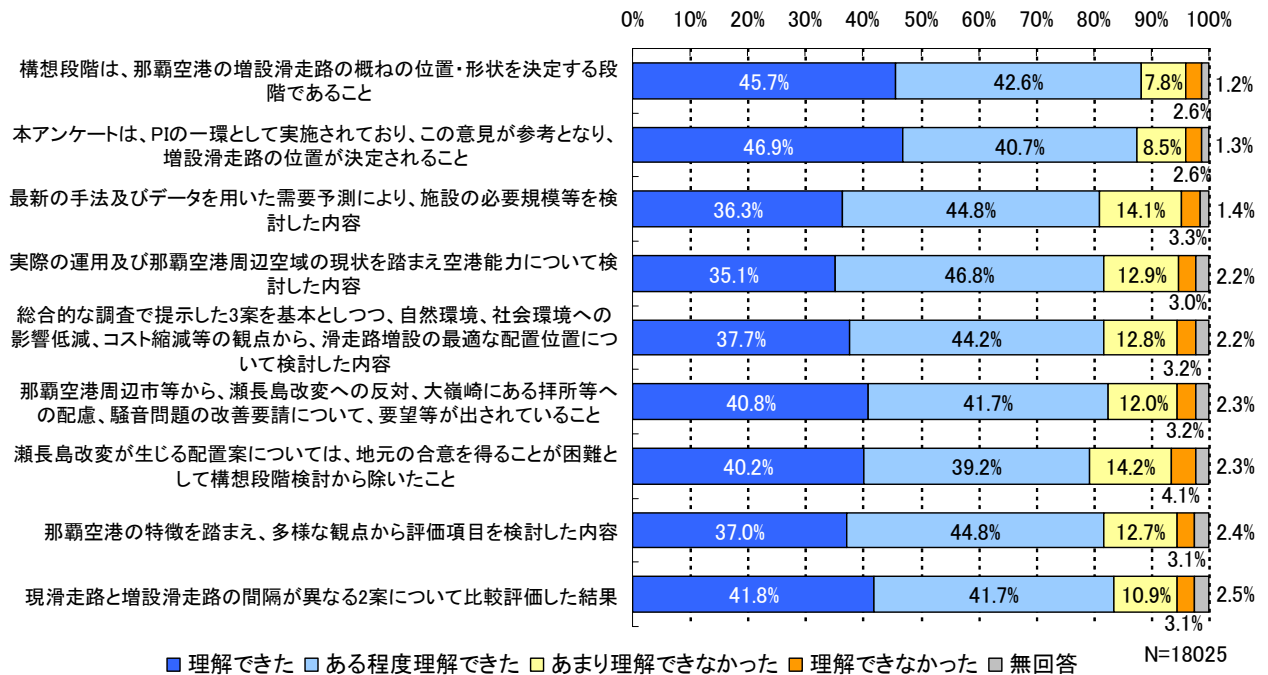


図5 PI参加者等における構想段階PIのためのレポートの要点の理解度（アンケート結果）

## ②評価

- アンケートについては、調査段階ステップ3の約1.4倍となる18,025人の方から回答が得られており、回答者の約8割が、レポートの要点について「理解できた」または「ある程度理解できた」と回答している。
- この結果から、PI活動を通じて提供した情報を受け取った県民等に、レポートに提示された構想段階検討で共有すべき情報について、概ね理解が得られたものとする。

#### (4) 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか

##### ①活動結果

##### ○自由回答欄に意見を寄せた県民等

○全回答者（18,025人）のうち13,364人（全体の74.1%）の県民等が自由回答欄に意見を寄せた。回答者の構成は次のとおりであり、アンケートに回答した属性と大きな違いは見られなかった。

[性別] 回答者の63.9%を男性が占めた。女性の比率28.9%（ステップ3：36.3%）であった。

[年齢] 30歳代が最も多く26.1%であり、次いで40歳代22.0%、50歳代約20.0%であった。

[職業] 会社員が53.7%、公務員が9.4%を占めたほか、主婦（7.1%）、自営業（4.5%）、学生（3.7%）からも回答を得ることができた。

[居住地] 居住地については、那覇市が約3割で最も多く、次いで県外、豊見城市、浦添市、名護市などとなっており、全県的に、また県外からも幅広く回答を得ることができた。

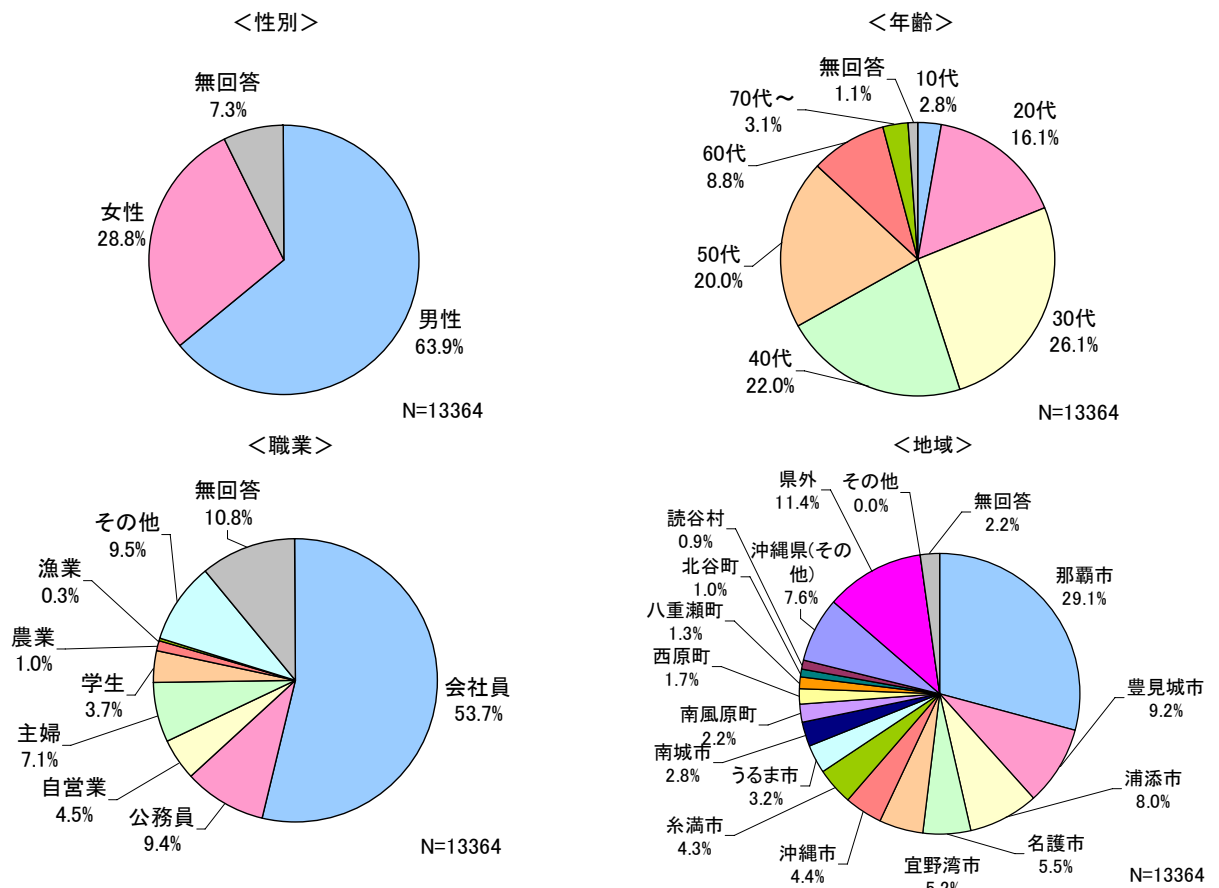


図6 アンケートにより意見を寄せた県民等（13,364人）の構成

## ○寄せられた意見の内容

- アンケートで寄せられた13,364人の他、説明会等で167人から意見が寄せられた。これら13,531人の意見を分析した結果、意見の総数は27,543件であった。
- これらの意見の全てについて、下図に示す手順で分類したところ、滑走路増設に肯定的なご意見については、「A案に肯定的な方からの意見」、「B案に肯定的な方からの意見」、「両案に肯定的な方からの意見」、「別案が良いとする方からの意見」、「案の選定は難しい、判断できないとする方からの意見」の5項目に、「滑走路増設に否定的な方からの意見」、「増設に明確な意思を表明されていない方からの意見」、「増設案選定方法に関する意見、提案」、「構想段階PIに関する意見」、「その他意見」含め10項目に大別でき、更に49項目に分類できた。
- 寄せられた意見の中で、滑走路増設案に関する意見のうち、「A案に肯定的な方からの意見」が最も大きな割合を占めている。
- ※ 複数の意見を寄せられた県民等がいるため、意見を寄せられた県民等の人数と一致しない。

### 寄せられた意見(13,531人)

PI活動中に県民等から寄せられた意見の全てを分類対象とする。



### 意見の分割(27,543件)

複数の内容を含む意見について、内容が1つになるように分割する。



### 意見の分類(49項目)

類似した意見を集め、幾つかのグループにとりまとめる。

#### ○美さんの意見

・事業費が安く、工期が短いA案に賛成です。但し、失われる環境に対しても、十分に配慮して下さい。

・事業費が安く、工期が短いA案に賛成です。  
・失われる環境に対しても、十分に配慮して下さい。

A案に肯定的な方からの意見  
A案良いとするご意見・理由  
更なる配慮、検討を求めらるご意見

#### △男さんの意見

・滑走路増設は沖縄の将来のためには必要である。しかし、両案の違いがよくわからない。

・滑走路増設は沖縄の将来のためには必要である。  
・しかし、両案の違いがよくわからない。

案の選定は難しい、判断できないとする方のご意見  
滑走路増設は必要とするご意見  
調査内容がわからない、疑問があるとするご意見

#### □郎さんの意見

・急速に経済が悪化している今、本当に需要は伸びるのでしょうか。  
・環境保全を優先すべきであり、滑走路増設は必要ないと思います。

・本当に需要は伸びるのでしょうか。  
・環境保全を優先すべきであり、滑走路を増設する必要はないと思います。

滑走路増設に否定的なご意見  
滑走路増設に否定的なご意見  
調査内容がわからない、疑問があるとするご意見

図9 寄せられた意見の分類方法(イメージ)



表5 寄せられた意見の分類

		意見の内容	意見数	
構想段階に関する意見	滑走路増設に関する意見	一、A案（滑走路間隔1310m）に肯定的な方からの意見	1. 増設A案が良いとする意見・理由	18,966 (68.9%)
			2. 滑走路増設が必要とする意見	13,825 (50.2%)
			3. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	138 (0.5%)
			4. 更なる検討、配慮を求める意見	580 (2.1%)
			5. 増設B案に懸念があるとする意見	4,138 (15.0%)
			6. その他の意見	226 (0.8%)
		二、B案（滑走路間隔850m）に肯定的な方からの意見	7. 増設B案が良いとする意見・理由	59 (0.2%)
			7. 増設B案が良いとする意見・理由	1,338 (4.9%)
			8. 滑走路増設が必要とする意見	981 (3.6%)
			9. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	2 (0.0%)
			10. 更なる検討、配慮を求める意見	77 (0.3%)
			11. 増設A案に懸念があるとする意見	171 (0.6%)
		三、両案に肯定的な方からの意見	11. 増設A案に懸念があるとする意見	94 (0.3%)
			12. その他の意見	13 (0.0%)
			13. 両案が良いとする意見・理由	530 (1.9%)
			14. 滑走路増設が必要とする意見	283 (1.0%)
		四、別案が良いとする方からの意見	15. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	5 (0.0%)
			16. 更なる検討、配慮を求める意見	28 (0.1%)
			17. その他の意見	196 (0.7%)
			18. 別案が良いとする意見・理由	18 (0.1%)
		五、案の選定は難しい、判断はできないとする方からの意見	19. 滑走路増設が必要とする意見	404 (1.5%)
			20. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	189 (0.7%)
			21. 更なる検討、配慮を求める意見	1 (0.0%)
			22. 増設A案に懸念があるとする意見	33 (0.1%)
			23. 増設B案に懸念があるとする意見	147 (0.5%)
			24. その他の意見	15 (0.1%)
		六、増設に否定的な方からの意見	25. 滑走路増設が必要とする意見	15 (0.1%)
26. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	15 (0.1%)			
27. 更なる検討、配慮を求める意見	1,434 (5.2%)			
28. 増設A案に懸念があるとする意見	278 (1.0%)			
29. 増設B案に懸念があるとする意見	291 (1.1%)			
30. その他の意見	727 (2.6%)			
七、増設に明確な意志を表明されてない方からの意見	31. 滑走路増設は不要とする意見	24 (0.1%)		
	32. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	35 (0.1%)		
	33. 更なる検討、配慮を求める意見	79 (0.3%)		
	34. その他の意見	938 (3.4%)		
八、案選定方法に関する意見	35. 調査内容がわからない、疑問があるとする意見	654 (2.4%)		
	36. 更なる検討、配慮を求める意見	739 (2.7%)		
	37. 増設A案に懸念があるとする意見	60 (0.2%)		
	38. 増設B案に懸念があるとする意見	58 (0.2%)		
九、構想段階PIに関する意見	39. その他の意見	146 (0.5%)		
	40. 増設案選定方法に関する意見、提案	202 (0.7%)		
	41. PIレポートに関する意見	1,053 (3.8%)		
十、その他意見	42. PIの進め方に関する意見	372 (1.4%)		
	43. その他PIに関する意見	361 (1.3%)		
	44. 那覇空港の現状に対する意見	320 (1.2%)		
	45. 国際貨物基地構想に関する意見	1,021 (3.7%)		
	46. ターミナルの利便性向上、配置位置に関する意見	124 (0.5%)		
	47. 戦後処理問題に関する意見	10 (0.0%)		
		48. その他交通機関、道路等の整備に関する意見	162 (0.6%)	
		49. その他の意見	15 (0.1%)	
		合計	27,543 (100.0%)	

※寄せられた全ての意見は、那覇空港構想・施設検討協議会のホームページ上で公開している。  
 (アドレス : <http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/information/nahakuukou/index.htm>)

○寄せられた意見への対応

○寄せられた10項目の意見に対する対応を検討し、この結果を提示した。(表6 寄せられた意見と意見に対する対応 参照)

表6 寄せられた意見と意見に対する対応

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解
滑走路増設に関する意見	一、増設A案(滑走路間隔1310m)に肯定的な方からの意見・理由	18,966件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		内訳		
		3,724	1- (1) 増設A案が良いとする意見 ・増設A案が良いとする意見	◆これまでの経緯について ・那覇空港については、平成15年度から平成19年度にかけて実施した総合的な調査において、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であること、またPIを通じて滑走路増設に肯定的な意見が多数寄せられたこと等から、滑走路増設について概ね理解が得られたものと考えております。これら検討結果を踏まえ、平成20年度は、複数の選択肢から、滑走路増設案を1案選定するための構想段階の検討に着手しました。  ◆構想段階における検討方法及び増設A案の特徴 ・構想段階では、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」の指導、助言を得ながら、那覇空港周辺の自然環境や、騒音・文化財等の社会環境、空港計画、コスト削減等の様々な観点から検討を行い、滑走路増設2案(増設A案、増設B案)を作成しました。 ・PIを通じてお示した滑走路増設2案については、それぞれ特徴があり、増設A案は、滑走路間隔が1310mと、より沖合に配置されるため、瀬長島、大嶺崎への影響を回避することが可能となり、また、水深の浅い箇所に配置されることから、増設B案よりはコストや工期が安く、短いといった特徴があります。自然環境については、沖に配置されることによりサンゴへの影響は大きくなりますが、砂質干潟生態系への影響は小さくなります。  ◆滑走路増設案の選定について ・今後は、技術検討結果や、今回のPIを通じて皆様から寄せられた多くのご意見等を総合的に勘案し、滑走路増設案を1案選定してまいります。
		410 636 1,711 76 2,249 158 286 11 1,188 135 59 88 264 899 760 77 380 267 245 202	1- (2) 増設A案が良いとする理由 ・県振興発展の観点から良いとする意見 ・空港能力の観点から良いとする意見(同時離発着が可能等) ・工期の観点から良いとする意見(工期が短い) ・利便性の観点から良いとする意見(旅客等利便性が高い等) ・事業費の観点から良いとする意見(事業費が安価等) ・社会経済効率性、経済効果の観点から良いとする意見 ・有事や事故等、安全面から良いとする意見 ・自衛隊との分離運用の観点から良いとする意見 ・生物等環境影響の観点から良いとする意見 ・通水性確保により海水滞留が改善可能であるとする意見 ・移植によりサンゴへの影響を低減することが可能とする意見 ・干潟への影響が小さいとする意見 ・社会環境、文化的環境影響の観点から良いとする意見 ・騒音影響の観点から良いとする意見 ・瀬長島、大嶺崎への影響回避の観点から良いとする意見 ・長期展望の観点から良いとする意見 ・総合的に良いとする意見 ・どちらかと言えば調査どおりであれば良いとする意見 ・地元の合意が得られやすい、現実的であるとする意見 ・その他意見	
		138	2 滑走路増設が必要とする意見 ・滑走路増設が県経済発展のため必要とする意見	◆レポートのとりまとめについて ・「構想段階PIのためのレポート」のとりまとめにあたっては、専門的な内容が多くを占めることから、県民の皆様等が読みやすいよう、文章表現を工夫するとともに、掲載する情報を必要最小限にとどめ、詳細な検討内容については、別途「詳細版」にとりまとめる等、工夫を行いました。しかしながら、掲載した事項について、「わからない」等のご意見を頂いたことから、掲載箇所や文章表現等について更なる工夫が必要であったものと考えております。  ◆需要予測及び施設規模の検討について ・構想段階検討においては、できる限り最新のデータを用いて、様々な経済状況を想定し、複数のケースについて需要予測を実施しました。その結果、バブル崩壊後のように低経済成長の場合においても、今後とも需要は増加すると予測されています。  ・また、滑走路長については、就航あるいは就航予定の機材の中で、最も滑走路長を必要とするのは、国際航空物流ネットワークの主要機材B767-300Fとなっており、当該機材が離陸するために必要な滑走路長は、2700mとの結果が得られています。  ・連絡誘導路については、滑走路が増設された場合の運用等を検討した結果、連絡誘導路については、当面は、ターミナル地域との連絡用として1箇所(誘導路は2本)としています。  ・ターミナル用地の規模や展開用地については、現在の需要予測値に基づき算出した結果、2030年度までの需要に対して、既存敷地内での対応が可能との結論が得られました。 ・今後とも引き続き需要の動向等には注視しつつ、検討を進めていく中で、必要に応じて需要予測の検証等を行っていく考えです。
		28 73 55 29 8 31 18 137 21 180	3 調査内容がわからない、疑問があるとする意見 ・調査内容が難しい、疑問等があるとする意見 ・需要予測について、今後とも需要は伸びるか等懸念等があるとする意見 ・滑走路長の規模や、連絡誘導路の本数、展開用地について、根拠がわからない、疑問、懸念があるとする意見  ・比較対象について、両案の違いがわからない、増設B案を比較対象とすることについて疑問があるとする意見 ・工期について、増設B案が長いのは疑問であるとする意見 ・事業費について、増設B案が高いのは疑問であるとする意見 ・地上走行距離が長いことによる利便性低下が懸念されるとする意見 ・サンゴ、干潟、藻場等環境影響の程度が不明、懸念されるとする意見 ・騒音影響がどの程度軽減されるか疑問であるとする意見 ・その他意見	
			◆各案の特徴について ・滑走路増設案作成にあたっては、自然環境や社会環境、コスト等に十分配慮しつつ、2案作成しました。それぞれ配置する箇所の水深や環境に違いがあることから、工期やコスト、地上走行距離、サンゴや砂質干潟生態系への影響等に差が生じています。  ・増設A案は増設B案より沖に配置することから地上走行距離が長くなりますが、増設B案に比べ水深の浅い箇所に配置されるため、工期やコストが短く、安くなっています。環境への影響については、増設A案はサンゴへの影響が大きく、岸寄りに配置される増設B案は、砂質干潟生態系への影響が大きく、大嶺崎の改変が生じます。騒音影響については、両案共に、陸域に係る影響は改善されるものと考えています。  ◆環境影響の検討について ・構想段階は既存資料を基に複数案を比較検討する段階であり、自然環境の検討では、配置位置によって藻場や干潟等の生物生息場の消失範囲が異なることから、消失面積を基準に影響の程度を比較しました。一方、サンゴ、藻場、干潟の価値を比較することは困難であることから、場の視点のみだけでなく、場と生物等が相互に関連した生態系についても生物の出現状況と底質基盤から生態系を区分して消失面積の比較を行っています。今後、事業が実施される段階において、環境影響評価法の手続に基づき、詳細な検討を行っていくこととなります。	

表6 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解	
滑走路増設に関する意見	一、増設A案（滑走路間隔1310m）に肯定的な方からの意見	2, 327	4 更なる検討、配慮を求める意見	<p>◆コスト縮減、工期短縮について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コスト縮減や工期短縮については、構想段階での検討のなかで想定できる範囲内で検討を行っており、より詳細な検討については、配置位置設定後、行うこととしております。</li> <li>また、事業が実施される場合は、必要な法的手続等をできる限り速やかに実施するなど、早期着工、早期整備に取り組んでいきます。</li> </ul> <p>◆自衛隊との共同利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>那覇空港の滑走路増設は、民間航空機の将来の需要増加に対するため実施するものであり、自衛隊機等の利用については、現状と同程度を想定しています。今後も、同空港を利用する全ての航空機が安全に運行できるよう、引き続き努力していくこととしています。</li> </ul> <p>◆配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より沖合への整備やメガフロートについては、 <ul style="list-style-type: none"> <li>増設A案より沖に配置した場合は、水深が深くなりコストが増加するため適当ではないこと。</li> <li>メガフロートの設置は、配置対象区域が水深0mの浅い箇所が多く、物理的に困難であること。</li> </ul> </li> </ul> <p>また、那覇空港における滑走路増設については、調査段階で肯定的なご意見が多数寄せられ概ねの理解が得られているものと考えており、環境やコスト等総合的に勘案して、増設A案、B案の2案を作成しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なお、滑走路が2本となることにより、代替機能としての確保も可能となり、2案ともに安全に航空機が運航できるために必要な滑走路間隔を有しています。</li> </ul> <p>◆設計への配慮や平行誘導路の二重化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現旅客ターミナル前面誘導路が1本しかないため、出発機と到着機が輻輳し遅延便の発生による定時制の確保等のサービス面にも影響が出ており、現在は到着機を滑走路の北側末端まで走行させる等、運用面で苦慮しながら対応している状況です。</li> <li>これを抜本的に解消する対策として、当該エリアの誘導路を二重化する方法が考えられたが、整備にあたっては、固定スポットを一部廃止するか現滑走路の移設等、実施に向けての課題が大きいことから、引き続き関係者間で検討することとしています。</li> <li>一方、当面の対応として、別の場所に誘導路を整備する等の有効活用策についても検討しているところです。</li> <li>なお、その他耐震等については、配置位置を決定した後、詳細な検討を実施していく中で、検討していきたいと考えております。</li> </ul> <p>◆環境影響低減について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滑走路増設案の作成にあたっては、サンゴや藻場等、生物の生息場の消失影響について十分考慮するとともに、潮流の流速変化の低減や、通水性の確保等による残存する干潟域の海水交換の向上等、増設に伴う環境変化をできる限り低減するよう配慮を行ってまいりました。なお、今後、事業を実施する段階において、環境影響評価法の手続に基づき、より詳細な検討を行っていくこととなります。また、騒音に配慮した運用についても、引き続き検討していきたいと考えております。</li> <li>文化財については、瀬長島や大嶺崎周辺に遺跡や拝所等が数多く分布していることから、滑走路増設案の作成にあたっては、これらへの影響についてもできる限り回避、低減するよう努めたところです。しかし、増設B案については、大嶺崎周辺区域の一部に改変が生じることから、今後事業を実施する段階において大嶺崎への影響等が生じる場合は、現在那覇市が実施している埋蔵文化財調査結果を参考にしながら、対応等を検討していく考えです。</li> </ul> <p>◆今後の検討にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、PIを通じて県民、地域の皆様等から寄せられた意見を十分踏まえつつ、詳細な検討を行ってまいります。</li> </ul>	
		35	5 増設B案に懸念があるとする意見		<p>◆B案の特徴について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>増設A案、B案ともに、環境やコスト等総合的に勘案しつつ作成しておりますが、それぞれ、配置する個所の水深や環境の違いにより特徴が異なっております。</li> <li>増設B案については、岸寄りに配置されることにより、増設A案に比べ地上走行距離は短く、また、サンゴや藻場への影響も小さくなっております。一方、岸寄りに配置されることにより、砂質干潟生態系への影響が大きく、大嶺崎の改変も生じることとなります。また、増設滑走路の一部が水深の深い場所に配置されることにより、増設A案に比べコストや工期が高く、長くなっております。</li> </ul>
		74	6 その他の意見		
69	59 その他の意見				



表6 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解	
滑走路増設に関する意見	二. 増設B案（滑走路間隔850m）に肯定的な方からの意見	1,338件			
			内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		388	7- (1) 増設B案が良いとする意見 ・増設B案が良いとする意見	◆これまでの経緯について ・那覇空港については、平成15年度から平成19年度にかけて実施した総合的な調査において、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であること、またPIを通じて滑走路増設に肯定的なご意見が多数寄せられたこと等から、滑走路増設について概ね理解が得られたものと考えております。 これら検討結果を踏まえ、平成20年度は、複数の選択肢から、滑走路増設案を1案選定するための構想段階の検討に着手しました。	
		97 41 163 124 22 33 113	7- (2) 増設B案が良いとする理由 ・利便性の観点から良いとする意見（旅客等利便性が高い等） ・有事や事故等、安全面から良いとする意見 ・生物等環境影響（サンゴ除く）の観点から良いとする意見 ・サンゴへの影響が小さいとする意見 ・瀬長島への影響が回避されるとする意見 ・どちらかと言えば調査どおりであれば良いとする意見 ・その他意見	◆構想段階における検討方法及び増設B案の特徴について ・構想段階では、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」の指導、助言を得ながら、那覇空港周辺の自然環境や、騒音・文化財等の社会環境、空港計画、コスト削減等の様々な観点から検討を行い、滑走路増設2案（増設A案、増設B案）を作成しました。 ・PIを通じてお示した滑走路増設2案については、それぞれ特徴があり、増設B案は、岸寄りに配置されることにより、地上走行距離が短く、サンゴや藻場への影響が小さくなっており、一方、増設滑走路の一部が水深の深い箇所に配置されることから、増設A案よりはコストや工期が高く、長くなっており、また、砂質干潟生態系への影響が大きくなっており、	
		2	8 滑走路増設が必要とする意見 ・滑走路増設が県経済発展のため必要とする意見	◆滑走路増設案選定について ・今後は、技術検討結果や、今回のPIを通じて皆様から寄せられた多くのご意見等を総合的に勘案し、滑走路増設案を1案選定してまいりたいと考えております。	
	12 65	9 調査内容がわからない、疑問があるとする意見 ・サンゴ、干潟、藻場等環境影響の程度が不明、懸念されるとする意見 ・その他	24頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 調査内容がわからない、疑問があるとするご意見」に同じです。		
	26 15 6	10 更なる検討、配慮を求める意見 ・工期短縮、早期整備、早期着工を求める意見 ・民間専用化を求める意見 ・別の案の検討も求める意見	25頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「4. 更なる検討や配慮を求めるご意見」に同じです。		
	68 15 10 31	11 増設A案に懸念があるとする意見 ・サンゴや干潟、生態系等環境影響等について十分配慮、環境影響低減に向けた検討、保全対策の実施等を求める意見 ・騒音影響や瀬長島、大嶺崎等文化財に十分な配慮を求める意見 ・地域住民等の意見を十分聞くべきとする意見 ・その他	◆A案の特徴について ・増設A案、増設B案ともに、環境やコスト等総合的に勘案しつつ作成しておりますが、それぞれ、配置する箇所の水深や環境の違いにより特徴が異なっております。増設A案については、より沖合に配置されることから、地上走行距離が長くなり、サンゴへの影響が増設B案に比べ大きくなっており、 ・一方、砂質干潟生態系への影響は小さく、また、水深の浅い箇所に配置されることから、増設B案比べ工期や工費も短く、安くなっており、		
	15 52 27	12 その他の意見 ・その他意見			
	530件				
三. 両案に肯定的な方からの意見		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
	158	13- (1) 両案が良いとする意見 ・両案どちらも良いとする意見	◆これまでの経緯について ・那覇空港については、平成15年度から平成19年度にかけて実施した総合的な調査において、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であること、またPIを通じて滑走路増設に肯定的なご意見が多数寄せられたこと等から、滑走路増設について概ね理解が得られたものと考えております。 これら検討結果を踏まえ、平成20年度は、複数の選択肢から、滑走路増設案を1案選定するための構想段階の検討に着手しました。		
	45 29 51	13- (2) 両案がよいとする理由 ・両案ともに、長所短所があり、差はあまりない。 ・県の振興発展のため良いとする意見 ・その他	◆構想段階における検討方法及び両案の特徴について ・構想段階では、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」の指導、助言を得ながら、那覇空港周辺の自然環境や、騒音・文化財等の社会環境、空港計画、コスト削減等の様々な観点から検討を行い、滑走路増設2案（増設A案、B案）を作成しました。 ・PIを通じてお示した滑走路増設2案については、それぞれ特徴があり、増設A案は、水深の浅い箇所に配置されることから、コストや工期が安く、短くなっており、砂質干潟への影響が小さくなっており、一方、増設B案は、岸寄りに配置されることにより、地上走行距離が短く、サンゴや藻場への影響が小さくなっており、		
	5	14 滑走路増設が必要とする意見 ・滑走路増設が県経済発展のため必要とする意見	◆滑走路増設案選定について ・今後は、技術検討結果や、今回のPIを通じて皆様から寄せられた多くのご意見等を総合的に勘案し、滑走路増設案を1案選定してまいりたいと考えております。		
	28	15 調査内容がわからない、疑問があるとする意見 ・分からない点などがあるとする意見	24頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 調査内容がわからない、疑問があるとするご意見」に同じです。		
	49 80	16 更なる検討、配慮を求める意見 ・工期短縮、早期整備、早期着工を求める意見 ・サンゴや干潟、生態系等環境影響等について十分配慮、環境影響低減に向けた検討、保全対策の実施等を求める意見	25頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「4. 更なる検討、配慮を求めるご意見」に同じです。		
	21 12 34	17 調査内容がわからない、疑問があるとする意見 ・騒音影響や瀬長島、大嶺崎等文化財に十分な配慮を求める意見 ・地域住民等の意見を十分聞くべきとする意見 ・その他意見			
18	17 その他の意見 ・その他意見				

表6 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解
滑走路増設に関する意見	四. 別案が良いとする方からの意見	404件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		22	18-(1) 別案が良いとする意見 ・増設A案、増設B案以外の案が良い	<p>◆これまでの経緯について</p> <p>・那覇空港については、平成15年度から平成19年度にかけて実施した総合的な調査において、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であること、またPIを通じて滑走路増設に肯定的なご意見が多数寄せられたこと等から、滑走路増設について概ね理解が得られたものと考えております。</p> <p>これら検討結果を踏まえ、平成20年度は、複数の選択肢から、滑走路増設案を1案選定するための構想段階の検討に着手しました。</p> <p>◆滑走路増設案の検討について</p> <p>・構想段階では、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」の指導、助言を得ながら、調査段階でお示した滑走路増設3案を基本に、那覇空港周辺の自然環境や、騒音・文化財等の社会環境、空港計画、コスト削減等の様々な観点から検討を行い、滑走路増設2案（増設A案、増設B案）を作成しました。</p> <p>・なお、滑走路増設案作成にあたり、210m案については、調査段階PIや構想段階検討において、瀬長島改変に対する反対等が多数寄せられたこと等から、地元の意見に配慮して、構想段階の検討対象から除いております。</p> <p>・また、より沖合へ、陸地への整備にあつては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増設A案より沖に配置した場合は、水深が深くなりコストが増加するため適当ではないこと。</li> <li>・陸地への増設にあつては、広大な用地が必要となるが、那覇空港の陸域側には滑走路増設の余地はないこと。</li> </ul> <p>から適当ではないと判断しました。</p>
		22	18-(2) 別案が良いとする理由 ・両案ともに一長一短、判断が難しいとする意見	
		12	・210m案が良いとする意見	
		33	・さらに沖合いに配置すべきとする意見	
		36	・陸地への増設を求める意見	
		50	・その他案を求める意見	
14	・その他意見			
1	19 滑走路増設が必要とする意見 ・滑走路増設が県経済発展のため必要とする意見			
33	20 調査内容がわからない、疑問があるとする意見 ・疑問、懸念があるとするその他意見	25頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 調査内容がわからない、疑問があるとするご意見」に同じです。		
17	21 更なる検討、配慮を求める意見 ・より沖合いへの配置を求める意見	26頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「4. 更なる検討や配慮を求めるご意見」に同じです。		
20	・別の案の検討も求める意見			
47	・サンゴや干潟、生態系等環境影響等について十分配慮、環境影響低減に向けた検討、保全対策の実施等を求める意見			
17	・騒音影響や瀬長島、大嶺崎等文化財に十分な配慮を求める意見	◆各案の特徴について		
46	・その他意見			
11	22 増設A案に懸念があるとする意見 ・生物等自然環境、社会環境等の影響が大きいとする意見	<p>・両案ともに、環境やコスト等総合的に勘案しつつ作成しておりますが、それぞれ、配置する箇所の水深や環境の違いにより特徴が異なっております。</p> <p>・増設A案は、水深の浅い箇所に配置されることから、コストや工期が安く、短くなっており、砂質干潟への影響が小さくなっております。一方、増設B案は、岸寄りに配置されることにより、地上走行距離が短く、サンゴや藻場への影響が小さくなっております。</p>		
4	・その他意見			
15	23 増設B案に懸念があるとする意見 ・増設B案に懸念があるとするその他意見			
4	24 その他の意見 ・その他意見			

表6 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解
滑走路増設に関する意見	五. 案の選定は難しい、判断できないとする方からの意見	1,434件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		103	25- (1) 滑走路増設が必要とする意見 ・滑走路増設が必要とする意見	◆これまでの経緯について ・那覇空港については、平成15年度から平成19年度にかけて実施した総合的な調査において、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であること、またPIを通じて滑走路増設に肯定的なご意見が多数寄せられたこと等から、滑走路増設について概ね理解が得られたものと考えており、沖縄県の振興発展を図る上で、滑走路増設は必要と考えております。 これら検討結果を踏まえ、平成20年度は、複数の選択肢から、滑走路増設案を1案選定するための構想段階の検討に着手しました。
		64	25- (2) 滑走路増設が必要とする理由 ・県振興発展のため必要とする意見	◆滑走路増設の必要性について ・那覇空港の滑走路増設は、民間航空機の将来の需要増加に対応するため実施するものであり、自衛隊機等の利用については、現状と同程度を想定しています。那覇空港については、予測時点で可能な限り最新の社会経済指標や航空サービスを反映するとともに、様々な経済成長を想定して需要予測を行った結果、バブル崩壊後のような低経済成長においても需要は増加することが予測されており、将来需要に対応するためには、滑走路増設による抜本的な対策を講じる必要があります。
		20	・空港能力向上の観点から必要である（能力は限界等）	◆構想段階における検討方法について ・構想段階では、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」の指導、助言を得ながら、那覇空港周辺の自然環境や、騒音・文化財等の社会環境、空港計画、コスト縮減等の様々な観点から検討を行い、特徴の異なる滑走路増設2案（増設A案、増設B案）を作成しました。
		18	・県経済発展のため必要とする意見	◆滑走路増設案選定について ・今後は、技術検討結果や、今回、PIを通じて皆様から寄せられた多くのご意見等を総合的に勘案し、滑走路増設案を1案選定してまいりたいと考えております。
		17	・安全面の観点から必要とする意見	
		13	・早期整備を求める意見	
		43	・その他意見	
		93	26 調査内容がわからない、疑問があるとする意見 ・調査内容が難しい、疑問等があるとする意見	25頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 調査内容がわからない、疑問があるとするご意見」に同じです。
14	・需要予測について、今後とも需要は伸びるか等懸念等があるとする意見			
13	・滑走路長の規模や、連絡誘導路の本数、展開用地について、根拠がわからない、疑問及び懸念があるとする意見			
24	・比較対象について、増設B案を比較対象とするについて疑問がある等とする意見			
18	・事業費について、増設B案が高いのは疑問であるとする意見			
42	・サンゴ、干潟、藻場等環境影響の程度が不明、懸念されるとする意見			
87	・その他意見			
97	27 更なる検討、配慮を求める意見 ・工期短縮、早期整備、早期着工を求める意見	26頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 更なる検討や配慮を求めるご意見」に同じです。		
34	・コスト縮減を求める意見			
10	・沖側を自衛隊利用とするよう配慮、また安全面での検討を求める意見			
13	・民間専用化を求める意見			
19	・安全な空港整備を求める意見			
46	・より沖合いへの配置を求める意見			
17	・別の案の検討も求める意見			
12	・設計にあたっての配慮を求める意見（耐震、余裕、滑走路延長、平行誘導路二重化、3本目の滑走路増設等を考慮した計画）			
291	・サンゴや干潟、生態系等環境影響等について十分配慮、環境影響低減に向けた検討、保全対策の実施等を求める意見			
39	・騒音影響への十分な配慮、影響低減に向けた運用の検討等騒音対策を求める意見			
30	・瀬長島、大嶺崎等文化財に十分な配慮を求める意見			
11	・十分な検討を行いつつ、進めてほしいとする意見			
50	・地域住民等の意見を十分聞くべきとする意見			
58	・その他意見			
14	28 増設A案に懸念があるとする意見 ・生物等自然環境、社会環境等の影響が大きいとする意見	28頁の「四. 別案が良いとするご意見」の「22. 増設A案に懸念があるとするご意見」、「23. 増設B案に懸念があるとするご意見」に同じです。		
10	・その他意見			
19	29 増設B案に懸念があるとする意見 ・自然環境や社会環境等への影響が大きいとする意見			
16	・その他意見			
79	30 その他の意見 ・その他意見			



表6 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解
滑走路増設に関するご意見	六. 滑走路増設に否定的な方からの意見	938件		(主な意見に対する対応見解)
		内訳	(意見の内容)	
		173	3-1-(1) 滑走路増設は不要とする意見 ・滑走路増設は不要とする意見	◆これまでの経緯について ・那覇空港については、平成15年度から平成19年度にかけて実施した総合的な調査において、将来需要に対応するためには滑走路増設が必要であることがわかっており、またPIを通じて滑走路増設に肯定的なご意見が多数寄せられたこと等から、滑走路増設について概ね理解が得られたものと考えております。これら検討結果を踏まえ、平成20年度は、複数の選択肢から滑走路増設案を1案選定するための構想段階の検討に着手しました。  ◆滑走路増設の必要性について ・那覇空港の滑走路増設は、民間航空機の将来の需要増加に対応するため実施するものであり、自衛隊機等の利用については、現状と同程度を想定しています。那覇空港については、予測時点で可能な限り最新の社会経済指標や航空サービスを反映するとともに、様々な経済成長を想定して需要予測を行った結果、バブル崩壊後のような低経済成長においても需要は増加することが予測されており、将来需要に対応するためには、滑走路増設による抜本的な対策を講じる必要があります。  ◆環境影響低減について ・滑走路増設案作成にあたっては、学識経験者等で構成する「那覇空港技術検討委員会」の指導、助言を得ながら、自然環境や社会環境にも十分配慮しながら、検討を行いました。なお、今後、事業を実施する段階において、環境影響評価法の手続きに基づき、より詳細な検討を行ってきます。
		36	3-1-(2) 滑走路増設は不要とする理由 ・有効活用等により現滑走路で十分対応可能とする意見	
		23	・自衛隊との共同利用解消により1本で十分可能とする意見	
		28	・需要は伸びない等とする意見	
		302	・自然環境や社会環境等への影響が大きいとする意見	
		23	・那覇空港とは別に、他地域（北部や中部等）への空港整備も求める意見	
		41	・米軍の跡地活用を求める意見	
		84	・その他意見	
26	3-2 調査内容がわからない、疑問あるとする意見 ・調査内容が難しい、疑問等があるとする意見	25頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 調査内容がわからない、疑問があるとするご意見」に同じです。		
41	・需要予測について、今後とも需要は伸びるか等懸念等があるとする意見			
10	・サンゴ、干潟、藻場等自然環境や騒音影響の程度が不明、懸念されるとする意見			
35	・その他意見			
12	3-3 更なる検討、配慮を求める意見 ・民間専用化を求める意見	26頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「4. 更なる検討や配慮を求めるご意見」に同じです。		
5	・別の案の検討も求める意見			
32	・自然環境や社会環境等について十分配慮、環境影響低減に向けた検討、保全対策の実施等を求める意見			
25	・その他意見			
42	3-4 その他の意見 ・その他意見			
滑走路増設に関するご意見	七. 滑走路増設に明確に意志を表明されていない方からの意見	1,657件		(主な意見に対する対応見解)
		内訳	(意見の内容)	
		245	3-5 調査内容がわかならい、疑問があるとする意見 ・調査内容が難しい、疑問等があるとする意見	25頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「3. 調査内容がわからない、疑問があるとするご意見」に同じです。  26頁の「1. A案に肯定的なご意見・理由」の「4. 更なる検討や配慮を求めるご意見」に同じです。  28頁の「四. 別案が良いとするご意見」の「22. 増設A案に懸念があるとするご意見」、「23. 増設B案に懸念があるとするご意見」に同じです。
		76	・需要予測について、今後とも需要は伸びるか等懸念等があるとする意見	
		20	・滑走路長の規模や、連絡誘導路の本数、展開用地について、根拠がわからない、疑問、懸念があるとする意見	
		23	・比較対象について、増設B案を比較対象とするについて疑問がある等とする意見	
		21	・事業費について、増設B案が高いのは疑問であるとする意見	
		84	・サンゴ、干潟、藻場等環境影響の程度が不明、懸念されるとする意見	
		12	・騒音の影響が実施、どの程度か懸念される。	
		173	・その他意見	
51	3-6 更なる検討、配慮を求める意見 ・必要性を十分検証すべきとする意見			
14	・コスト縮減を求める意見			
45	・民間専用化を求める意見			
15	・安全な空港整備を求める意見			
11	・より沖合いへの配置を求める意見			
26	・別の案の検討も求める意見			
36	・米軍跡地や他地域への整備等を求める意見			
311	・サンゴや干潟、生態系等環境影響等について十分配慮、環境影響低減に向けた検討、保全対策の実施等を求める意見			
23	・騒音影響への十分な配慮、影響低減に向けた運用の検討等騒音対策を求める意見			
35	・瀬長島、大嶺崎等文化財に十分な配慮を求める意見			
15	・漁業組合との十分な調整、早期調整等を求める意見			
11	・沖を出発、または沖を貨物、陸側を旅客専用とするなど、運用に関する意見			
23	・十分な検討を行いつつ、進めてほしいとする意見			
30	・地域住民等の意見を十分聞くべきとする意見			
93	・その他意見			
10	3-7 増設A案に懸念があるとする意見 ・利便性の観点から懸念があるとする意見（地上走行距離が長い）	28頁の「四. 別案が良いとするご意見」の「22. 増設A案に懸念があるとするご意見」、「23. 増設B案に懸念があるとするご意見」に同じです。		
29	・生物等自然環境、社会環境等の影響が大きいとする意見			
21	・その他意見			
34	3-8 増設B案に懸念があるとする意見 ・自然環境や社会環境等への影響が大きいとする意見			
24	・その他意見			
146	3-9 その他の意見 ・その他意見			



表6 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

意見		意見に対する対応見解	
段階	分類	件数	概要
滑走路増設に関する意見	八. 増設案選定方法に関する意見、提案	202件	
		内訳	(意見の内容)
			(主な意見に対する対応見解)
		40 53 24 13 13 14 39 46	<p><b>◆滑走路増設案選定について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増設案選定方法に関する意見、提案</li> <li>・県民の総意、地元住民に配慮した案を選定すべきとする意見</li> <li>・選定にあたっては、十分な議論、十分な検討を行うべきとする意見</li> <li>・PIの意見を尊重すべきとする意見</li> <li>・将来性、経済発展等を重視すべきとする意見</li> <li>・利便性を重視すべきとする意見</li> <li>・自然環境（環境）を重視すべきとする意見</li> <li>・その他意見</li> </ul> <p>◆滑走路増設案選定にあたっては、技術検討結果や、今回のPIを通じて県民や地域の皆様から寄せられた多くのご意見等を十分踏まえ、滑走路増設案を選定してまいりたいと考えております。</p>
構想段階PIに関する意見	九. 構想段階PIに関する意見	1,053件	
		内訳	(意見の内容)
			(主な意見に対する対応見解)
		61 129 81 101	<p><b>◆レポートのとりまとめについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PIレポートに関する意見</li> <li>・絵や図等があり読みやすい、わかりやすいとする意見</li> <li>・字などが多すぎてわかりにくい（読みにくい等）、DVDがわかりづらいとする意見</li> <li>・誘導的であるとする意見（A案に有利なまとめ方等）</li> <li>・その他意見</li> </ul> <p>◆レポートの作成にあたっては、調査段階で頂いたご意見等を踏まえ、文章表現を工夫するとともに、図や絵を多く添えるなど、出来る限り短くわかりやすい表現となるよう努めました。また、提供する情報については、多くの方が手に取る「構想段階PIのためのレポート」については、必要最小限にとどめ、詳細については、詳細版にとりまとめ、読みやすくするよう心がけました。</p> <p><b>◆今後の対応について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なお、今後、情報提供を行う際には、今回のご意見を踏まえ、理解しやすい情報の開示や十分な情報の提示に努めていきたいと考えております。</li> </ul>
		243 24 94	<p><b>◆PIの進め方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PIの進め方に関する意見</li> <li>・もっとPRすべきとする意見</li> <li>・説明会の持ち方（日時、場所、対象、質疑応答時間）に対する意見</li> <li>・その他意見</li> </ul> <p>◆PIは、実施計画に基づき行っており、実施計画では、調査段階の経験等を踏まえ、多くの皆様に参加しやすい方法を定めております。</p> <p>◆構想段階PIの実施にあたっては、多数の方々に参加いただけるよう、オープンハウスや説明会等を全県的に実施し、特に地元の方々を対象とした説明会を重点的に実施しました。</p>
		142 25 25 128	<p><b>◆PIの目的及び進め方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他PIに関する意見</li> <li>・PIは良いとする意見</li> <li>・アリバイづくり、意味はない、結論ありき等とする意見</li> <li>・他の事業でも取り入れるべきとする意見</li> <li>・その他のPIに関する意見</li> </ul> <p>◆PIは幅広く県民等の皆様に検討過程に参加して頂くため実施するものであり、県民等の皆様に情報の提供を行い、寄せられたご意見を踏まえて、滑走路増設案を選定していくこととしております。</p> <p>◆なお、PI実施にあたっては、透明性を確保するため、十分な情報の提供や意見収集がなされているか等について、第三者機関であるPI評価委員会の評価・助言を得ながら実施しました。</p>
その他の意見	十. その他意見	1,021件	
		内訳	(意見の内容)
			(主な意見に対する対応見解)
		19 33 24 48	<p><b>◆那覇空港の現状への対応について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇空港の現状に対する意見</li> <li>・騒音に対する苦情、改善要請に関する意見</li> <li>・路線の拡充、料金の引き下げ等を求める意見</li> <li>・便利な空港、その他サービス向上等を求める意見</li> <li>・その他、現状に対する苦情、対応策を求める意見等</li> </ul> <p>◆那覇空港の現状の課題への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航空機騒音については、民家防音対策などを実施しているとともに、発生源対策についても努力しているところです。</li> <li>・沖縄路線については、現在、航空機燃料税率等の軽減措置による航空運賃の低減が図られております。</li> </ul>
		10	<p><b>◆国際貨物基地構想について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際貨物基地構想に関する意見</li> <li>・国際貨物基地構想は進めるべき、実現不可能であるなどの意見</li> </ul> <p>◆国際貨物基地構想について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際貨物基地構想は、産業の活性化や雇用拡大の面で効果が期待できることから、必要な支援を行ってまいります。</li> </ul>
		103 20 39	<p><b>◆ターミナルの利便性向上に向けた取り組みについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナルの利便性向上、配置位置に関する意見</li> <li>・国際線等ターミナルの利便性向上を求める意見</li> <li>・ターミナルを滑走路間に配置すべきとする意見</li> <li>・その他意見</li> </ul> <p>◆ターミナルの利便性向上に向けた取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる航空需要の増加による施設の狭隘化や老朽化に対応するとともに、アジア・ゲートウェイ構想に対応した国際航空物流拠点形成に向けた対策として、平成20年10月に策定した「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」に基づき施設の整備を進め、ターミナルビル等の利便性の向上に努めてまいります。</li> <li>・また、滑走路増設後における新たなターミナルの展開については、需要動向を注視しつつ、必要に応じて検討することになります。</li> </ul>
		15	<p><b>◆戦後処理問題について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後処理問題に関する意見</li> <li>・戦後処理問題に関する意見</li> </ul> <p>◆戦後処理問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後処理問題については、現在、沖縄振興計画に基づき取り組まれていると聞いております。今後も関係部署において対応されるものと認識しておりますが、引き続き情報収集に努めてまいります。</li> </ul>
66 25 62	<p><b>◆その他交通機関の整備について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他交通機関、道路等の整備に関する意見</li> <li>・道路網等の整備を求める意見</li> <li>・モノレールの延伸、整備等を求める意見</li> <li>・その他意見</li> </ul> <p>◆その他交通機関の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港アクセスについては、自動車移動の高速性、定時制を確保するため、現在、国において那覇空港自動車道の整備を進めており、また、県においてモノレールの延伸に向けた検討を進めているところです。</li> </ul>		
57 19 45 436	<p><b>◆地元企業優先発注について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の意見</li> <li>・地元企業優先発注を求める意見</li> <li>・米軍基地の返還、自衛隊の米軍基地への移転等を求める意見</li> <li>・空港周辺の利活用（人口ビーチ、釣り場等の整備）を求める意見</li> <li>・事業者へのはげましや、個人の思い、観光に関すること、沖縄県の振興計画等に関することなどの意見</li> </ul> <p>◆地元企業優先発注について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業対策については、今後も引き続き取り組んでまいります。</li> </ul> <p><b>◆空港周辺の利活用について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、事業実施にあたっては、空港周辺環境にも十分配慮してまいります。</li> </ul>		
総意見数		27,543件	

## ②評価（幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか）

- アンケートを寄せた方の約74.1%と多くの方々がアンケートの自由意見欄に回答しており、全県的に、幅広い年齢層、職業層から意見が寄せられている。
- これらの県民等から寄せられた意見の内容は、構想段階PIで提供した滑走路増設案に関する内容やPI活動等多岐にわたったものとなっている。
- また、構想段階PIで提供した情報を踏まえ、今後実施段階等における検討課題についての意見も数多く寄せられている。
- 収集した意見は27,543件と、調査段階ステップ3（20,951件）の約1.3倍と増加しており、これらの全ての意見を49項目に分類し、分類した項目に対する対応を検討し、考え方を提示している。

## 2. まとめ

### (1) 視点毎のPI活動の評価

評価の視点	評価
1)PI活動は適切に行われたか	○PI実施計画で予定した活動は全て実施するとともに、オープンハウスや個別団体への懇談会等を全県的に数多く開催しており、特に那覇空港周辺の地域住民に対して積極的に説明を行っている。また、新たに県外空港でもレポートの設置箇所を設ける等、幅広く県民や県外の空港利用者が参加できるよう活動を充実させている。
2)提供した情報が周知されたか	○レポートの配布や各種イベントを通じて、構想段階の検討に関する情報を、県内外の約8万7千人の方々に対して、直接提供できている。 ○オープンハウスや説明会等の全県的实施や、各種大会等におけるレポートの配布、県外空港を含めレポートの設置箇所を可能な限り増やす等、積極的に情報提供に取り組んだことにより、新たに多くの方々に情報を提供することができ、県民等への認知度がより一層高まったものと推測される。
3)提供した情報が理解されたか	○アンケートについては、調査段階ステップ3の約1.4倍となる18,025人の方から回答が得られており、回答者の約8割が、レポートの要点について「理解できた」または「ある程度理解できた」と回答している。 ○この結果から、PI活動を通じて提供した情報を受け取った県民等に、レポートに提示された構想段階検討で共有すべき情報について、概ね理解が得られたものとする。
4)幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか	○アンケートや説明会等を通じて、調査段階ステップ3の約1.5倍となる13,531人の方から意見を収集できている。 ○収集した意見数も、27,543件と調査段階ステップ3(20,951件)を上回って(約1.3倍)おり、全ての意見を49項目に分類した上で、各項目毎に意見に対する対応を提示している。

### (2) PI活動の総合評価

- 調査段階の経験を踏まえ、より効果が高い商業施設等でのオープンハウスや懇談会等を全県的に数多く開催したり、各種大会等においても積極的にレポートを配布する等、周知・広報活動の強化に努めた結果、幅広いPI対象者の理解が概ね得られた。
- この効果もあり、調査段階ステップ3を上回る約18,025人の方からアンケートが寄せられ、PI対象者の様々な意見を把握するとともに、寄せられた意見に対する対応を整理することができた。
- 以上から、那覇空港の滑走路増設について、PIの対象者がその内容を理解する段階、様々な意見を踏まえて論点が整理できる段階を経て、意見がある程度集約され、PI対象者の考え方を把握できる状態に達するという構想段階PIの目標は達成できたとする。